

2019 年度事業計画

2019 年 3 月 25 日

学校法人 金城学院

目 次

はじめに	2
《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）	
I 2019年度事業計画の策定にあたって	7
II 金城学院大学	8
1 福音主義キリスト教による全人教育の強化	
2 教育・研究の支援と学生支援	
3 地域社会との共生	
III 金城学院高等学校及び金城学院中学校	10
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 カリキュラムマネジメントの確立	
3 教科教育の研究・充実	
4 中高連携した進路指導体制の整備・充実	
5 研究体制の充実	
6 地域社会との共生	
7 金城学院創立 130 周年記念事業の実施	
IV 金城学院幼稚園	13
1 キリスト教主義による全人教育の実践	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 地域社会との共生	
4 新入園児募集の取り組み	
V 法人部門	16
1 キリスト教主義による全人教育の強化	
2 教育・研究の推進と学習支援	
3 健全経営の維持	
4 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進	
5 金城学院創立 130 周年記念事業の立案と実施	
VI 予算概要	18
1 予算編成方針	
2 主な事業別予算	

はじめに

金城学院は、1889年（明治22年）の創立以来、長きにわたってキリスト教主義に基づく女子教育に心血を注いできた。「主を畏れることは知恵の初め（箴言1：7）」を学院モットーに掲げ、現在は、建学の精神に基づく学院全体の教育の柱「福音主義キリスト教による女子教育」「全人的な一貫教育」「国際理解の教育」に従って、大学では「強く、優しく。」を、中学校・高等学校では「社会に参画し、主体的に生きる女性の育成」を、幼稚園では「愛され、育ち合う。」を、それぞれ教育スローガンとしている。

本学院は、今年で創立130周年という記念の年を迎えます。創立以来130年の長きに亘って積み上げられた伝統は、本学院の発展を願い、戦前・戦中・戦後の苦難の時代を乗り越え、絶えず改革を進めてきた先人たちの労苦の上に築かれたものである。このことに鑑み、本学院は今後も、変革すべきは変革し、変えてはならないものは変えない姿勢で、今日の教育機関を取り巻く厳しい環境や激しい社会の変化に対応していく。

なお、本学院は建学の精神の深化を基本方針とする「金城学院中期計画（2015年度～2020年度）」（次頁参照）を基に、常に学院全体の組織・機構についての客観的な評価を実施し、法人運営を将来にわたって強固なものにするとともに、将来をしっかりと展望しつつ、教育・研究における質的向上の不断の努力を今後も続けていく。

《資料》金城学院中期計画（2015年度～2020年度）

テーマ／学校区分／中項目	施策	
Ⅰ キリスト教主義による 全人教育の強化	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・学生と教職員への建学の精神の徹底 ・キリスト教教育の再構築 ・学内礼拝の励行と教会出席の推奨 ・エラ・ヒューストン記念礼拝堂の活用 ・地域教会との連携強化 ・地域住民へのキリスト教講座の充実
	中学校・高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の企画・参加型礼拝の実施 ・近隣教会への出席の奨励 ・キリスト教教育実施体制の再構築 ・教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励 ・宗教主事の果たすべき役割の見直し ・キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応 ・地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励
	幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践 ・礼拝と祈りと奉仕の実践 ・近隣教会への出席の推奨 ・礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻むこと
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教関係諸行事の充実と地域教会との関係強化（礼拝の魅力化と学生・生徒・園児に対する伝道の強化） ・教会関係施設の地域への開放 ・歴史館の設置（金城学院アーカイブズの整理集約・保管・展示） ・キリスト教音楽活動の活性化

教育・研究の推進と学習支援	大学 教育・研究上の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育の充実 ・社会から求められる教養教育の実現 ・国際理解教育の更なる推進 ・高度職業人の育成 ・教育課程の体系化 ・実質的な学修時間の確保 ・学生の主体的・能動的学びの実現 ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づく教育の実現 ・国家試験合格率の向上 ・研究成果の可視化と教育への還元 ・科学研究費などの申請件数、採択件数の拡大
	学生支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー制の充実 ・キャリア開発・就職支援の推進 ・学生マナーの向上 ・クラブ・サークル活動の活性化 ・学生相談体制の充実 ・学生ボランティア活動の促進 ・「K-カルテ」「K-PORT」による学生支援の充実 ・防災体制の整備 ・共通教育運営体制の充実
	教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・FD活動及びSD活動の推進 ・自己点検・自己評価制度の更なる拡充
	中学校・高等学校 教育力の向上（探究力育成）	<ul style="list-style-type: none"> ・“Dignity”の充実 ・英語と社会の合科“World Studies”の充実 ・GDM（英語による英語教授法）を使った授業改善 ・ESD（持続可能な発展のための教育）導入の検討 ・多様な語学研修プログラムの推進 ・中高大教育連携の更なる推進
生徒支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立・自律・連帯」精神の育成と高揚 ・中高連携した進路指導体制の整備・充実 ・生徒相談に関するケースカンファレンスの定期的な実施 ・校舎建替え期間中の中高相互協力による良好な教育環境の確保 	
教学マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・入試研究部における入試改善の研究 ・カリキュラム研究部における探究力育成の研究 ・教師力向上のための研修会の実施 ・教育評価制度の導入と施行 	

Ⅱ 教育・研究の推進と学習支援	幼稚園 魅力ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実 縦割り（異年齢）保育の充実 保護者と教員との連携強化 保護者参加行事の見直し
	環境の整備と子育て支援 中高大との交流と教員の連携	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備 幼稚園周辺の豊かな自然の有効利用、保全、美化 預かり保育の拡充 未就園児保育「プレ幼稚園」の拡充 学生、生徒、園児の交流 教員相互の交流・連携
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 修学及び成長意欲の喚起を促す奨学金制度の見直し
Ⅲ 健全経営の維持	組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 人事評価制度の見直し 管理職の育成 内部統制が有効に機能したガバナンスの確立 業務プロセスの見直しによる業務の効率化 危機管理体制の強化 教職員の意識向上によるリスクマネジメントの強化 内部監査制度の定着
	財務体質の強化	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の費用対効果の検証 よりの確な意思決定ができる予算制度への改善 財務指標に裏付けられた健全経営の維持 財源多様化による収入基盤の強化
	広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的広報活動の推進 積極的な情報公開の推進
Ⅳ 地域社会との共生	大学	<ul style="list-style-type: none"> 環境共生モデル地区の維持と活用 「大学コンソーシアムせと」への積極的参加 KIDS（Kinjo Infant Development Support）センターの設置と運営 企業との積極的な連携 生涯教育、社会人教育、リカレント教育の充実
	中学校・高等学校 キャンパスの地域への開放 地域奉仕活動への参画	<ul style="list-style-type: none"> 東区主催「文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供 施設・設備の利用法の見直し 東区主催「文化のみち」への積極的参画と奉仕活動 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動 病院・刑務所・福祉施設等への慰問 音楽系クラブによる演奏奉仕
	幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 大学との連携による子育て支援プログラムの推進 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施
	法人（学院全体）	<ul style="list-style-type: none"> 歩道整備による地域住民及び学生の安全の確保

△ K M P 21 の 推 進	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、3期（1期…N1、N2棟及び礼拝堂の建築及び周辺整備、2期…W3棟建築及び周辺整備、3期…E1、E2棟建築及び周辺整備）に分けて整備計画を進めることにしている。 ・第1期は予定通り2014年度に終了した。 ・第2期(W3棟建築及び周辺整備)は、2014年度から実施しているが、これを計画通り2015年度中に完了させる。 ・第3期(E1、E2棟建築及び周辺整備)については、2020年度からの実施を計画しているが、それに向けた検討を行う。
	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校では、2013年度に世光館を竣工した。 ・2014年度から地塩館の建て替えを実施しているが、これを計画通り2015年度中に竣工させる。 ・地塩館の竣工とともに栄光館を改修する。
	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、高校の改築にともない設置した仮設校舎を引き続き利用し、2016年度から恵愛館、友愛館、信愛館の改築を実施し、2017年度中に竣工させる。
VI 金城学院創立130周年・大学 設立70周年記念事業の立案 と実施		<ul style="list-style-type: none"> ・130周年記念事業についての立案と実行 ・130周年記念寄付金の募集 ・みどり野会（金城学院同窓会）との連携強化 ・金城学院資料室の整備

I 2019 年度事業計画の策定にあたって

少子高齢化の進行、学校間競争の激化など、私学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、社会のニーズもますます多様化してきている。金城学院は、そうした様々な社会の変化とその要請に対して迅速かつ適切に対応できるよう、2019 年度も大学から幼稚園に至る各学校において、様々な教育制度の改革や、経営の改革を推し進める。

大学では、大学設立 70 周年を迎える本年度は、本学での教育と研究の活動が、知識だけではなく、熟慮と慎重さをもって生きることへ導く知恵の修得につながるよう、教育・研究の推進と学生支援を計画し、教育・研究の成果を社会に還元するための地域社会との共生を推し進める。

高等学校及び中学校では、「確かな学力」を育むため「アクティブ・ラーニング」推進と評価の検討を深化させ、社会に参画し、主体的に生きる女性を育成する。

幼稚園では、2018 年度改定新幼稚園教育要領に基づきカリキュラムを組んでいる。キーワードの一つとして「主体的・対話的で深い学び」が提示されているが、学校教育で言われている「アクティブ・ラーニング」に通じる。本園が創設以来の方針としているように、神に与えられた一人ひとりを活かすため、主体的な遊びを通して自己発揮しながら互いに育ち合う幼児教育を目指す。

法人部門では、中期計画に基づき、学院創立 130 周年記念事業実施に向けて、最終的な詰めを行い、各種事業を成功させるとともに、健全経営を行うため、各種施策を推し進める。

II 金城学院大学

「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、多様化する社会で主体的に生きる強さと思いやりの心を兼ね備えた品格ある女性の育成を目指す。とりわけ大学設立 70 周年を迎える本年度は、本学での教育と研究の活動が、知識だけではなく、熟慮と慎重さをもって生きることへ導く知恵の修得につながるよう、教職員が協力して以下の計画の実現に向けて取り組むものとする。

具体的には学院中期計画（2015 年度～2020 年度）に基づき、福音主義キリスト教による全人教育の強化を柱に、教育・研究の推進と学生支援を計画し、教育・研究の成果を社会に還元するための地域社会との共生の事業を計画した。

1 福音主義キリスト教による全人教育の強化

① 学生と教職員への建学の精神の周知

学院創立 130 周年を迎えるにあたり、学生に向けては新入生オリエンテーション及び金城アイデンティティ科目の授業の中で機会あるごとに確認する。また、教職員に向けては、新任教職員オリエンテーションや夏期修養会、大学教員キリスト教セミナーを、「建学の精神」の確認の時として位置づける。

② 学内礼拝の励行と教会出席の推奨

学生・教職員に向けて礼拝出席の向上に力を入れる。また、教会暦にそった記念礼拝を充実させる。

2 教育・研究の推進と学生支援

(1) 教育・研究上の改革

① 国際理解教育の更なる推進

受入れ留学生を増加させるため、現在実施している日本旅館でのインターンシップ「Kinjo O-MO-TE-NA-SHI Study プログラム（日本のホスピタリティーを学ぶプログラム）」以外に、地元企業との連携による新たな産学連携による実習系授業を検討する。また、留学を希望する学生のニーズにあうよう留学先の選択肢を増やすため、国内外の留学・海外教育系フェアを利用し海外協定校の新規開拓に積極的に取り組む。

② 社会から求められる教養教育の実現

2018 年度に新カリキュラムとして整備された共通教育課程を中心に、学生にとって教育的に有意義な教養教育の実現を図る。とりわけ新設された「女性みらい」をはじめとした科目を通して、現代社会を生きる女性として必要な知識・技能を修得できるよう努める。

③ ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育の実現

2018年度には、学部・大学院ともにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを改訂した。本年度はこれらのポリシーに基づいた全学的な内部質保証のための体制整備と施策実行を進める。また、学生における学修成果の可視化に資するべく、新たなポリシーをふまえたカリキュラム・マップの作成を、共通教育科目・専門教育科目の各々において実施する。大学院においては、各ポリシーをふまえ、これを運用・調整していくこととする。

(2) 学生支援の充実

① 学生マナーの向上

学生のマナー向上を目指し、教員、学生生活支援センター、キャリア支援センターが協力分担し、学生会とも連携して継続的な啓発活動を推進する。

② クラブ・サークル活動の活性化および学生ボランティア活動の促進

クラブ・サークルのボランティア活動に係る支援体制を整え、学生にとって充実したボランティア活動ができるよう支援を行う。

③ 受入れ留学生及び送出し留学生の経済的支援の充実

留学に関する奨学金制度を見直し、留学生のニーズに即したものに整備することにより留学生の経済的支援の充実を図る。

(3) 教学マネジメント体制の強化

① FD活動及びSD活動の推進

内部質保証を実施する全学的な組織・体制について、教職員全体で情報を共有するため、FD・SD交流集会を実施する。また外部試験などアセスメント・ポリシーにおいて計画されている評価項目を周知するため、FD交流集会を実施する。

② 自己点検・自己評価制度の更なる拡充

第3期大学認証評価において求められている大学の内部質保証システムを整備していく。

3 地域社会との共生

① 社会人教育の充実

女性みらい研究センターの多彩な学習プログラム、専門家によるキャリア相談、交流イベントなどにより、社会人教育方策の充実を図る。

② 学部の専門性を生かした産官学連携活動の推進

学科や教員が企業・自治体等と個々に実践している産官学連携活動に関する情報を共有し、意見交換や相互協力ができるような体制を整え、活動を推進する。

Ⅲ 金城学院高等学校及び金城学院中学校

建学の精神に基づき、「社会に参画し、主体的に生きる女性」を育むため、「科学的思考」「表現」「協働」する力を、全ての教育活動で育成していく。

2021年度から、大学入試制度が大きく変化する。また、2021年度から中学校で、2022年度から高等学校で、新学習指導要領がスタートする。それらに対応するために、カリキュラムマネジメントを確立する中で、教科横断を視野に入れつつ、効果的な科目設定や授業内容の改善を行う。中学校では英語、数学、言語技術の時間を増やすため週2日7限授業を実施する。さらに、調査書の変更や学習履歴や活動履歴の報告書などの作成に向けての準備が必要となる。

1 キリスト教主義による全人教育の強化

① 生徒の企画・参加型礼拝の実施

伝道週間や特別礼拝などを、宗教常任委員会、宗教委員会を中心に、生徒によって企画を立てて行い、生徒の参加を更に促していく。特に、春秋にもたれる伝道週間では、創立130周年を覚えて、生徒のアイデアを盛り込んでいく。

② 近隣教会への出席の奨励

教会出席奨励日があるが、1年を通して、担任や授業担当者（聖書科を中心に）の協力を得て、引き続き教会への出席を促す。

③ キリスト教教育実施体制の再構築

これまでの中高の一貫教育としてのキリスト教教育の意義を確認し、「礼拝、行事、聖書科授業」のさらなる連続性を構築していくとともに、キリスト教教育の中で、宗教課が直接、責任を負う生徒の特別活動、ハンドベルクワイアやYWCAなどを、中学校・高等学校で同じ位置付けに整える作業を進める。

④ 幼中高教師修養会の充実

本校の教育の礎であるキリスト教について学ぶ機会として、幼中高教師修養会をさらに充実させる。

⑤ 教員のキリスト教学校教育同盟研修会への参加の奨励

キリスト教学校教育同盟の研修会への参加を促す。さらに、それぞれの年代からの代表が参加していけるようにする。

⑥ 宗教主事の果たすべき役割の見直し

キリスト教教育全般をつかさどる各校の宗教主事が、学院主事会の責任のもとでそれぞれの役割を担い、ますます中高大の連携を強化する。

⑦ キリスト教学校教育同盟との連携による「道徳の教科化」への対応

キリスト教学校教育同盟と連携し、中高における道徳という教科の位置付けを学院主事会で話し合い、学院として方針を決定する。

⑧ 地域を中心としたボランティア活動への参加の奨励

課外活動としてのボランティアの形を整え、他者に感謝して仕えることで社会に参加できる生徒を養い育てる取り組みを継続する。

2 カリキュラムマネジメントの実施

教育目標を達成するために編成・計画された全ての教育活動が有機的に結びつき、かつ効果的に実施されているかどうかを評価して、教育活動を改善していくためにカリキュラムマネジメントを実施する。

3 教科教育の研究・充実

- ① 「科学的思考」「表現」「協働」する力の育成を目指す、授業改善を一層進める。
- ② 2021年の中学校の新学習指導要領のスタートに先立ち、2019年度より中学校では週2日7時間授業を実施し、基礎学力の定着と探究活動の充実に充てる。
- ③ 2022年の高等学校の新学習指導要領のスタートに備えて、本校の教育課程を改訂する。
- ④ 6年一貫カリキュラムを推進する。
- ⑤ “Dignity”を土台として、全ての教科、教育活動で「言語技術」「課題研究力」を育成する。
- ⑥ 英語と社会の合科“World Studies”に加えて、教科横断型学習の実践研究を充実させる。
- ⑦ 新学習指導要領に向けた新教科「理数探究」「論理表現」の研究開発をする。
- ⑧ 中高大教育連携を更に推進するため、中高大共同研究「中学校から大学までの汎用的能力を育成する教育手法の開発」の成果を活用する。共同研究で作成した中高大コモンルーブリックをアカデミックライティング力の向上に役立てる。
- ⑨ タブレット導入などICTの更なる活用を推進する。

4 中高連携した進路指導体制の整備・充実

- ① 進路指導が単なる知識・技能の習得度に基づく指導に留まることなく、多面的・総合的な評価に基づき、生徒一人ひとりの将来目標の実現を支援するあり方に転換する。
- ② 大学入試制度の変更や入試の多様化について、進路指導課として情報収集し、早めの準備やその対応方法などを提案する。
- ③ 調査書及び指導要録の様式等を、新たな中学校・高等学校の在り方を踏まえ、生徒の多様な学習成果や活動が反映されたものになるように改定する。

5 研究体制の充実

- (1) 入試研究部における入試改善の研究
 - ① 思考力を測定するような記述式試験、及び英語利用入試制度の導入について検討する。
 - ② 面接内容に関するサンプルをとり、受験生の力をはかる方法を検討する。
 - ③ 塾などの主催する入試研究会への参加、入試情報誌の閲覧、研究部内での勉強会の実施などを行う。
 - ④ 金城学院サポート奨学金ジュニアハイの効果を検証する。
- (2) カリキュラム研究部における探究力育成の研究
 - ① 教育目標図に示されている「科学的思考」「表現」「協働」を育成する授業の開発支援をする。
 - ② 「科学的思考」「表現」「協働」の3つの力が本校の教育プログラムによって、発展・育成されたか効果測定を行う。そのために教科ルーブリックを作成する。
 - ③ 教育課程表の形式の改善をする。
 - ④ 21世紀型学力の研究開発をする。
 - ⑤ アドミッション、カリキュラム及びディプロマの各ポリシーを作成する。
 - ⑥ 新たな評価方法の研究・開発を行い、生徒の多様な学習成果や活動を評価する方法に転換する。
 - ⑦ 中学校新校舎での電子黒板の活用方法を研究し、活用力を養う授業の計画と実施をする。
- (3) 教師の研究力向上のための研修会の実施
 - ① 中高教師研修会の実施

6 地域社会との共生

- (1) キャンパスの地域への開放
 - ① 東区主催「歩こう！文化のみち」などでの施設・設備の開放と活用機会の提供
 - ② 施設・設備の利用法の見直し
- (2) 地域奉仕活動への参画
 - ① 東区主催「歩こう！文化のみち」への積極的参画と奉仕活動
 - ② 社会福祉関係施設・保育関係施設での奉仕活動
 - ③ 病院・刑務所・福祉施設等への慰問
 - ④ 音楽系クラブによる演奏奉仕

7 金城学院創立 130 周年記念行事の実施

金城学院中学校・高等学校ホームカミングデイを実施するための準備を滞りなく進め、10月26日に高等学校栄光館を中心に両校で開催する。

IV 金城学院幼稚園

「幼稚園教育要領改訂」が2017年3月に公示され、2018年度から各園のカリキュラムに取り入れられている。保育の質向上のための取り組みが具体的に示されたと言えよう。また今回の改定は2020年度施行の「小学校教育要領改訂」とのつながりを強く求めた内容となっている。スムーズな小学校への連携として幼児期の終わりまでに育てたい姿は、自発的な活動としての遊びを中心として幼児教育を通じ小学校以降も持ち続けることを目指している。つまり、幼児教育は当然ではあるが、就学の準備教育ではなく、学ぶための基礎となる健全な心身の育成を目的とした教育であることの見直しと確認の機会と言えよう。

新教育要領では、「幼児期に育てたい資質・能力の柱として『知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力などの基礎、学びに向かう力や人間性など』は幼児の遊びや生活を通して一体的に育まれることが大切である」と唱えられている。また、「主体的、対話的で深い学び」は本園が創設以来長年に渡り推し進めてきた教育方針そのものである。

キリストの愛の基、子ども、保護者、教員が互いに育ち合うことを目的として2019年度も引き続き「愛され、育ち合う。」のスクールモットーの基、より質の高い幼児教育に取り組み、キリスト教幼児教育の推進のための教育事業を以下のように進める。

1 キリスト教主義による全人教育の実践

① 建学の精神に基づくキリスト教教育の意識強化と教育スローガンの実践

教育スローガン「愛され、育ち合う。」を実施するため、キリスト教保育連盟2019年度聖句に基づきカリキュラムを組むものとする。

② 礼拝と祈りと奉仕の実践

教員自身が礼拝を重んじ、聖日礼拝出席、奉仕に携わるなどを通し、全園児合同礼拝、クラス礼拝の充実を図る。また年長児による合同礼拝での献金奉仕、クリスマスキャロリング、ハンドベル演奏などを通し地域での奉仕を実践する。

子どもの素直な言葉による祈りの心を大切に育む。

③ 近隣教会への出席の推奨

教会出席のきっかけ作りとして、夏休み・春休み等に教員が交代で子どもたちと共に地域の教会へ出席をする。

④ 礼拝を通し「主の祈り、聖句、聖話、讃美歌」を幼児の心に刻む

毎月の聖句暗唱、讃美歌、聖話は天地創造からキリストの降誕、イエスの生涯、十字架の贖罪、復活と昇天を年間カリキュラムに組み入れ繰り返し伝える。

3学期には全園児で主の祈りを覚える。

2 教育・研究の推進と学習支援

(1) 魅力ある教育の推進

① 縦割り保育の充実

満3歳児、3・4・5歳児が家庭的な雰囲気の中で交わり、遊びや生活を通し、異年齢の子と関わることで、より多くの刺激を授受し経験を広げ深める。

自分らしさを出し合いながら、年上児は年下児への思いやりやいたわりの心を、年下児は年上児への憧れや尊敬を育む。また年齢に関わらず発達に即した年齢の仲間と交わり自己発揮することで自尊感情の獲得や自己充実へつなげる。

② 自由活動とリンクした学年別活動・クラス活動の充実

各活動をリンクさせながら、一貫性を持たせた保育に取り組む。

学年別活動での年長児は、話し合いや意見を発表する機会を多く取り入れながら、自分で判断し行動できるように育む。

2018年度から開始の「英語で遊ぼう」コーナーの更なる充実を図る。

③ 発達障がい児とその保護者への支援

個別支援計画に基づき、スタッフ会議を定期的に行う等チームで検討会や研修を深める。また支援施設との連携を含めその子に合った幼児教育支援に取り組む。更に保護者との連携を密に行い相談を受けやすい環境を作る。

④ 保護者と教員との連携強化

保護者と教員との懇談や保護者の保育参加を通し、園児の相応しい成長のための連携強化を図る。子どもニュースやドキュメンテーションの掲示等、保護者へ「保育の見える化」を図ることに努め、教育方針や園の理解をより深めてもらう。

⑤ 教員の研修・研究

・話し合いの「質」向上のために外部有識者を交えて園内研修を行い、更なる保育の充実に努める。

・ソニー教育財団からの表彰を機に、論文説明会などを開催し本園の教育を広く知ってもらう。

(2) 環境の整備と子育て支援

① 魅力ある園庭作りと、主体的な遊びを促す環境の整備

魅力ある園庭、主体的な遊びを促す環境整備に努める。同時に、遊具や設備の安全点検、メンテナンスを行う。また、キャンパス内の豊かな自然環境の有効利用、保全を大学との連携により行う。

② 預かり保育の拡充

通常保育後の教育活動としての預かり保育の量、質の充実に努める。また長期休暇中の利用についての検討を行う。

③ 未就園児保育の拡充

2018年度から KIDS センター利用 0歳児から対象におこなっている「ようちえんへおさんぽに行こう」の拡充、0～2歳児親子対象「こすずめの会」や「入園前

プレ幼稚園」開催の充実拡充に努める。また増築された多目的ルームを使用し、2019年度から2歳児親子プレ幼稚園事業を開始、幼稚園理解と入園に繋げていく。

(3) 中高大との交流と教員の連携

① 学生、生徒、園児の交流

大学・大学院生の実習、留学生との交流会、中学生・高校生の職場体験、高校生キャラバン隊、中高大ハンドベルクワイアによる奉仕など、様々な交流の機会をもつ。

② 教員相互の交流・連携

幼中高修養会を通し、キリスト教教育に携わる教諭相互の交流・連携を深めていく。

3 地域社会との共生

① 大学との連携による子育て支援プログラムの推進

KIDSセンターとの更なる連携により、幼稚園入園後も情報交換しながら親子を支援する態勢を整えていく。

② 園児と地域の小学校・保育園との交流活動の実施

近隣の保育園との遊び交流会、就学前に地域の小学校を訪問し1日体験など2019年度も引き続き行う予定である。

③ 園児と地域の高齢者との触れ合い交流活動の実施

花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス讃美礼拝、ハンドベルコンサートなどの機会を活かし、近隣の方やお年寄りを招くなどの計画を通して交流を持ち、感謝を表すと同時に伝承遊びを教えてもらったり体験談を聞いたりする機会を持つ。

4 新入園児募集の取り組み

(1) 入園願書配布のための取り組み強化

① 幼稚園体験と説明会の充実

先に述べたように、プレ幼稚園やKIDSセンターとの連携により幼稚園を開放することで入園に繋がる取り組みを企画し行う。また2歳児親子プレ幼稚園事業を通し、確実な入園児獲得と、広報活動の一端としたい。

説明会は6月から4回程度計画し、ホームページやドキュメンテーションを更新して視覚に訴える説明を重視していく。

② 幼稚園広報の充実

より観やすく、幼稚園探しに参考となるホームページリニューアルに努める。園生活の公開をこまめにアップし、説明会参加につなげる。

また、入園関連のチラシを守山区役所民生子ども課や子育て広場、KIDSセンターに置かせてもらい、PRに努める。

V 法人部門

金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校及び金城学院幼稚園が行う様々な事業を、円滑かつ健全に運営するために法人部門が担う役割は極めて重要である。変化が激しい社会環境や、多様化するニーズに応えることができる学校法人であるために、絶え間ない組織・経営改革の推進を、法人部門は求められているからである。

このような認識と使命の下、学校法人金城学院の中期計画に基づく法人部門の2019年度事業計画としては、次の4点を掲げてその取り組みを進める。

1 キリスト教主義による全人教育の強化

① 金城学院アーカイブズの整理集約・保管・展示（継続）

資料館設置に向けて、まず、アーカイブズの整理集約を行ない、保管・展示に方法についても検討を開始する。

② 新学部の設置

2021年4月開設に向けて、新学部の設置を検討する。

2 健全経営の維持

(1) 組織力の向上

① 教職員の意識向上によるリスクマネジメントの強化

教職員一人ひとりが教育・研究活動を行なっていく上で、自分自身の回りに潜むリスクを常に意識すると共に、そのリスクを回避のための方策を検討し、実行に移せるよう、リスクマネジメントを強化する。

(2) 財務体質の強化

① 財源多様化による収入基盤の強化

収益事業法人（2017年11月設立）が2期目を迎え、コア事業・業務運営体制ともに安定し、基礎的な収益構造が確立された。今後、さらに、コア事業・業務運営体制ともに安定させ、その上で、コア事業の収益拡大・事業分野の拡大を図り、収入基盤の安定化・強化を推し進める。

(3) 広報の充実

① 戦略的広報活動の推進

創立130年の歴史と伝統を通して構築されたブランド力を更に高めて行くため、交通広告・動画サイトを継続するとともに、新たに130周年広報戦略を実施する。

3 KMP21（金城学院キャンパスマスタープラン）の推進

① 大学第3フェーズの実施

大学第3フェーズを1年前倒しして2018年2月から開始しているが、2020年8月に竣工させ、2020年度後期からの利用を目指す。

4 金城学院創立130周年記念事業の立案と実施

① 130周年記念事業についての立案（継続）

金城学院創立130周年を、建学の精神に基づく学院の使命を改めて確認する機会としてとらえ、130周年記念企画委員会のもと、各担当実行委員会で具体的な企画を立案し、実施する。

② グローバルコミュニケーションセンター（仮称）の設置

130周年を記念して、社会貢献の一つとして、名古屋に在住する外国人との交流を図ったり、リカレント教育を実施する施設の設置を検討する。

VI 予算概要

1 予算編成方針

(1) 収入関連

学生生徒納付金収入は、各校とも対入学者定員 100%、退学・休学想定率 2%とする。補助金収入は、前年度実績の 90%もしくは最低補償額を見込む。その他の収入等は、不確定な要素があるので、例年通り織り込まない。

(2) 支出関連

健全財政の確保を目的として、2019年度の継続経費は、「2018年度規模に対するゼロシーリング」を目指す。また、引き続き、防災対策強化、環境配慮などの政策的予算への積極的な再配分を目指す。設備更新関連は、緊急性、有効性などを十分検討し予算化する。

(3) 保有資金

KMP21に関連する収支を除いた予算で、2019年度において保有資金の増額 10億円以上を目指す。

2 主な事業別予算

予算編成方針に基づき、2019年度の主な事業に対する予算を次のとおり計画した。

(単位：千円)

分類	事業内容	予算額
KMP21 関連事業	(大学) ・KMP E 1 棟建築費 ・KMP E 1 棟各種申請調査費	1,118,968
教育設備 充実事業	(大学) ・大学体育館アリーナ空調化工事 など	233,989
	(中学校) ・中学コンピュータ室のパソコン更新 など	
修繕事業	(大学) ・N3 棟トイレ改修工事 ・本部棟高圧受変電設備機器更新工事 ・宿舍整備・改修費 など	327,515
	(高等学校) ・栄光館外壁等修繕 など	
	(中学校) ・体育館5階プール温水シャワー修理 など	
広報事業	・新聞広告掲載 ・鉄道額面ポスター掲出 など	210,983
防災対策 強化事業	(高等学校) ・グラウンドブロック塀X線調査 など	601
その他	・緊急特別就職支援策 など	143,044
合計		2,035,100